

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

# 東日本大震災支援ニュース 第1号

東日本大震災対策本部（全教、日高教、全国私教連）

2011年3月22日（火）

## 教職員・子ども・学校の被災状況の把握、被災者救援に奮闘する現地組織を激励に 第1次先遣隊が全教カーで宮城、福島へ

東日本大震災で未曾有の被害を受けた宮城、福島、青森、岩手などの全教・教組共闘の各組織は組合員と連絡を取り合い、組合員の安否、子ども・教職員と学校の被災状況の確認をすすめています。激震地との連絡は困難を極めています。執行部は、地震で被害を受けた事務所を再開し、困難ななか役職員が結集して奮闘しており、人事異動や高校入試などについて県教委に対する緊急要請にもとりくんでいます。



全労連物資を満載し出発する全教カー

全教・日高教・全国私教連本部は、震災直後から現地との連絡、被災状況の確認を開始し、14日には本邦内に東日本大震災対策本部を立ち上げるとともにただちに全国に救援カンパと支援体制の準備を要請し、16日に文部科学省と公立学校共済組合本部に緊急要請をおこなってきました（詳しくは全教ホームページ参照）。全教は、現地組織への本部役員派遣の可能性を追求してきましたが、全労連の緊急車両として全教カーの派遣が決まり、全労連から県労連への支援物資搬送にあわせて、全教・日高教・全国私教連対策本部の第1次先遣隊を20日～21日、仙台市と福島市に派遣しました。全労連に立ち寄った全教カーは、電動自転車5台や紙おむつなど全労連の単産・地方からの支援物資を満載し、建交労の役員の運転で現地に向かいました。

## 仙台では宮城高教組・県教組・私教連に、福島では福島県立高教組・私教連に支援金を手渡し、書記局に支援物資を届け激励

【宮城での活動報告】



被災状況と支援のとりくみを協議する宮城の3教組委員長ら

全教第1次先遣隊は、磯崎全教書記次長を責任者に加門副委員長（日高教委員長）、今谷中央執行委員をメンバーに、20日、仙台市の宮城高教組・県教組・私教連に書記局の皆さんへの支援物資として、野菜、水、カップめん、ガスボンベ、ガソリン、全国私教連大会に全国から寄せられた物資、赤ちゃんのミルク（職場の要求に応じて）などを届けました。宮

城高教組の会議室では、全教から高教組の佐藤委員長、県教組の齊藤委員長、私教連の安野委員長にお見舞い金を手渡し、組合員の安否と被災状況の確認に奔走し、実態を踏まえて県教委に申し入れ活動を開始している書記局の皆さんを激励しました。3教組の各委員長からは、深刻な被害の実態ととりくみについて、以下の報告がありました。

- ・会館は壁が一部落ちるなどの被害があったが、電気はつき、水も市から来るようになった。何より人命が大事であり、組合員の安否の確認から始めている。これからがスタートであり、全国の支援に励まされている。
- ・仙台市内にもガソリンがなく、沿岸部の地域に入れない。ガソリンの提供はありがたい。
- ・県教組組合員の猪俣聡さん(南三陸町戸倉中)、佐々木祐一さん(石巻市大川小)が子どもを津波から守ろうとして犠牲になった。石巻市の大川小では教職員 13 人中 10 人、子ども 108 人中 84 人が津波で行方不明になっている。くやしい。
- ・組合員は避難所にはりついて奮闘している。本部は県の緊急対策本部に参加し、車 2 台を緊急車両に登録した。これで被災現地に入り、要望をつかみ応えられるよう支援体制をとっていききたい。



津波で破損した車が国道わきに

全教・日高教からは、今後長期にわたるとりくみであり、本部として仙台に現地事務所を今月中に開設し、物資やボランティアの受け入れ、全教共済の申請事務の迅速化の体制をつくることをお伝えし、協力をお願いしました。23 日には、第 2 次先遣隊(杉浦副委員長、米田中央執行委員、佐古田日高教副委員長)を派遣し、さらに準備をすすめます。

#### 【福島での活動報告】



全教から福島高教組に見舞金を手渡す

翌 21 日、福島市内に全教カーはむかいましたが、市内には大震災・津波と原発事故のもとで物資が不足し、県外や東京に避難する住民が増え、ガソリンスタンドには長蛇の列ができていました。福島県立高教組のある教育会館では、高教組の斉藤書記次長と私教連の岡田委員長に激励金を手渡し、私教連の支援物資を渡し、激励しました。現地組織からは、震災と原発の被害のもとでの状況ととりくみについて、以下の報告がありました。

- ・高教組の事務所は、天井がはがれたが電気も水道も復旧している。斉藤書記次長は、学校が避難所になっており、毎日避難所の仕事をしたあと組合事務所につめて、組合員と連絡とり状況把握に努めています。
- ・人事異動について実情を踏まえた対応を要求してきたが、人事異動は内示されたものの、4 月 1 日異動は見送りになり、期日は未定になっています。
- ・原発の放射線漏れで物資が県外から入らなくなっており、コンビニは閉まり、スーパーは長蛇の列になっています。ガソリンがなく、スタンドに 300 台も並んでいる状況です。

## 被災者医療の前線に立つ坂総合病院に支援物資を搬入

21 日朝、仙台を発った全教カーは、宮城県多賀城市にある民医連の坂総合病院に赤ちゃんのミルク・ウェットティッシュ、タオル、電動自転車、灯油などを届けました。海岸に近づくにつれ、津波の被害を大きさが目につきます。国道沿いにも、両側に壊れた自動車がずらっと並んでおり、商店街にも浸水した家屋がありました。病院には、全国から支援に来た医師や看護師が患者を迎え、被災地を回っています。

高教組と県教組は、登録した 2 台の緊急車両を使い、23 日から、



坂総合病院に支援物資を届ける

沿岸の被災地の避難所を回り、安否の確認と教職員への激励、要求の聞き取りなどにとりくみます。